

# はるか

ゆたかな暮らしの  
情報紙

令和5年春号

「ありがとう」を花せるお葬式  
東京 千葉 埼玉 神奈川



株式会社 孝行舎

—お見積り無料 ご相談随時受付—

本社：東京都足立区中央本町4-17-2  
葬儀サロン：東京都足立区中央本町1-19-2



0120-81-5548

TEL 03-3887-9090(代) FAX 03-3887-9091

孝行舎

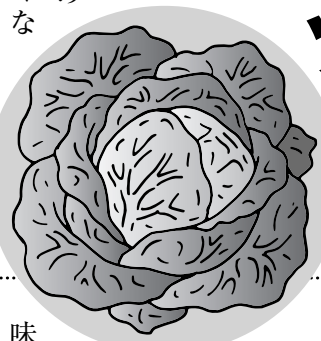
検索

深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい  
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

- すこやか「食」の旅——キャベツ
- ご存じですか?——「ゴッホ」
- 伝統のモノ——ロールス・ロイス
- 花ものがたり——フジ
- 生活の中の仏教語——大衆
- 仏事と葬儀の知識——葬儀後のマナー

すこやか  
「食」の旅

## キャベツ



トンカツに千切りキャベツは欠かせません。ヒレ、ロース、どんなにおいしいお肉であつても「キャベツ不在」のトンカツなんてトンカツじゃない！」という声も聞こえてきそうですね。このようにキャベツは、私たち日本人にとつてもたいへん身近な野菜で、現在、日本で栽培・利用されているすべての野菜の中で、栽培面積と収穫量ともに一番なのがキャベツです。

### ◆キャベツ一族は大家族◆

ブロッコリー、カリフラワー、チンゲンサイ、カブ、野沢菜、小松菜、白菜…など、これらはすべてキャベツ一族、つまり、キャベツと同じ先祖をもつアブラナ科アブラナ属の野菜です。

これだけ多くの子孫をもつキャベツの「ご先祖」はというと、地中海沿岸地域を中心とした石灰質の岩場に自生し、青汁の原料としても知られる今のケール(同じくキャベツの近縁種)に似た植物であつたといわれています。

### ◆薬草だったキャベツ

キャベツと私たち人間との付き合いは古く、自生していたキャベツの先祖は、私たち人類の

歴史が記録される以前からすでに利用されていたといわれ、食用というより「薬草」として用いられていたようです。

古代ギリシャでは、キャベツには酒の酔いを醒ます効果があると考えられ、酒宴の前にキャベツのスープを飲んだともいわれます。また、数学の授業でお馴染みの「ピタゴラスの定理」で知られる古代ギリシャの数学者、哲学者・ピタゴラスも、キャベツの薬効に興味を抱いて研究をしていたとも伝えられます。

事実、キャベツにはビタミン類やカルシウムなど、健康に良い成分が含まれています。ことに、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を予防する効果があるといわれる「キャベジン」(別称・ビタミンU/市販の胃腸薬の名前としても知られています)は、キャベツに多く含まれる健康成分です。

### ◆結球したキャベツ

前出のケール(Keil)は、英語で結球しない縮れ葉のキャベツを意味するように、もともとの野生のキャベツは丈も高く、葉と葉の間が開いていたといえます。そこに人間の手が加わってキャベツの姿も次第に変化し、一説には13世紀頃のイタリアで、今のように結球したキャベツの栽培が始まったといわれています。

### ■日本のサラダ事始め■

キャベツが本格的に日本に入ってきたのは明治時代のこと。冒頭にあるトンカツに欠かせない千切りキャベツは、ウスターソースと同様に明治時代の日本人が考案したものです。そして、この千切りキャベツが、日本人が生で野菜を食べるきっかけにもなったのです。

ご存じですか？

## ゴッホ

私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きつこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

\* \*

今回は、画家ゴッホについての話題をご紹介します。



### 愛こそ力

ゴッホというと、自分の耳を切り取るといったセンセーショナルなエピソードを思い浮かべ、孤独の中で生きた狂気の画家というイメージを抱いている方も多いかもかもしれません。しかし、「愛こそ真の力だ」とゴッホ自身も記しているように、ゴッホは生涯、家族に愛され、家族を愛した画家でもありました。

1853年3月30日、フィンセント・ファン・ゴッホは、オランダ南部の小さな村ズンデルトの牧師の子として生まれます。ゴッホがフィンセントという名前をもらった父方の祖父もまた牧師でした。

教区の人たちに「ハンサムな牧師さん」と親しまれた父テオドルスは温厚な人柄で、子どもたちもそんな父親を慕い、また、(最初のオランダ憲法を製本した)王室御用達の製本家という家柄に生まれた母アンナは、根っからの愛情の深さで子どもたちにも接し、夫の務めを支える気丈な女性であったといえます。

### 画家になるまでのゴッホ

ゴッホの弟テオの妻であるヨー・ファン・ゴッホ＝ボンゲルによる伝

記『フィンセント・ファン・ゴッホの思い出』には「子どもの頃のゴッホは気難し屋で、よく面倒を起こし、しかもわがままだった。こうした欠点は彼が成長しても直ることはなかった」とあります。

事実、ゴッホは幼少期から扱いにくい子どもで、小学校も途中でやめて家庭教師につき、中学もまた途中退学して画商だった伯父の縁故により画廊で働いたり、父と同じ聖職者になろうと神学を学んだりしますが、いずれも途中で挫折しています。

高い理想と生きることへの真剣さゆえに、現実社会との折り合いをつけづらかったゴッホは、周囲から受け容れられず、自分の居場所を見つけることができなかつたのです。

しかし、両親はそんな息子を心配しながらも決して見放すことはなく、「よいところもたくさんある」と、見守りつづけたといえます。

### 画家になったゴッホ

ゴッホが画家を志したのは27歳のときで、決して早いスタートとはいえません。後年、最愛の弟テオに送った手紙に「そうです、真実は絵にしか語らせることができないのです」と記したゴッホは、生きづらかった現実社会の

トンネルを抜け、画家としてようやく自分の歩むべき道を見つけたのかもしれない。

1888年、37歳で亡くなる2年前、ゴッホは灰色の雲におおわれた冬のパリを離れ、南仏のアルルに移ります。

「色彩の画家」といわれるゴッホがその才能を開花させたのは、強い日差しに輝くそのアルルの風景だったともいわれます。

そして、そんな南仏の明るい町と重ね合わせてゴッホが想い描いていたのが、他ならぬ日本でした。

### 日本に憧れたゴッホ

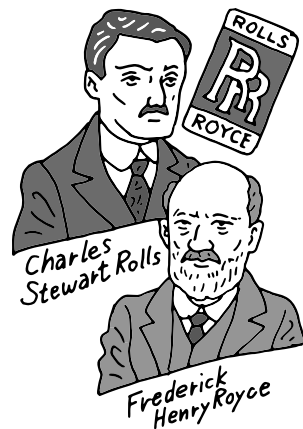
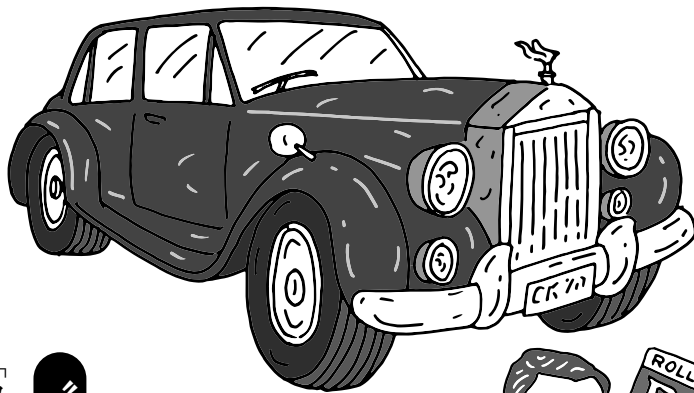
19世紀末にヨーロッパで日本美術が大流行し、ゴッホも歌川広重の浮世絵を模写したり、自分の絵の背景に浮世絵を描いたりしています。

しかし、ゴッホの日本への憧れはそれだけではなく、日本の僧侶のような面立ちをした自画像を描き、「この肖像画では僕は日本人のように見える」と友人ゴーギャンへの手紙に書き記しているように、日本の風土や日本人の精神性にも向けられていたようです。ゴッホは実際に日本を訪れたことはありませんが、自分が想像する日本、日本人像をはっきりと持っていたことがうかがえます。

伝 統 の モ ノ

# 伝説につつまれた名車

## ロールス・ロイス



### 絶対に故障しない

誰でも一目見れば「ロールス・ロイスだ!」とわかるのに、その車に乗ったことがあるという人は、おそらく世界中でもそんなにいないのではないのでしょうか。そんな「ロールス・ロイス」には、伝説や逸話もたくさんあります。

「ロールス・ロイス」といえば、たとえば、次のようなエピソードがよく知られています。

——アルプスの山中を「ロールス・ロイス」で走っていたところ、シャフト(タイヤの中心にある棒状の回転部品)が折れて立ち往生してしまった。そこへ部品を積んだヘリコプターが飛んできて修理をしてくれた。しかし、待てどもその修理代の請求書が届かない。そこで、ロールス・ロイス社に問い合わせてみると、

「それは、お客さまの何かのお間違いでしょう」とのこと。なぜなら、

「当社の車が故障するはずはございません」と突っぱねられ、結局、修理代を支払わせてもらえなかった——。

本当かどうかはさて置き、メーカーとしての絶対の自信と、顧客からの絶対の信頼が生んだ「ロールス・ロイス」ならではの逸話といえます。

### 「ロールス」と「ロイス」

2つの「R」が重なるトレッドマークからもおわかりのように、ロールス・ロイス社は、ロールスとロイスというふたりの人物によって1906年に創業されました。

一方の「R」、貴族出身のチャールズ・スチュワート・ロールスはケンブリッジ大学で工学を専攻し、車好きが高じて輸入車販売会社「ロールス社」を設立。もうひとりの「R」、粉ひき職人の息子だったフレデリック・ヘンリー・ロイスは、苦学して電気工学を修め、小さな電気部品会社「ロイス社」を設立します。

育ちも経歴も異なるものの、「世界最高の車を作りたい!」という情熱を同じくするこのふたりの出会いによって2社が合併、ロールス・ロイス社が誕生します。そして、商才に長けたロールスと熟達じゆくたつの技術者ロイスのコンビにより、高級車メーカー

として揺るぎない名声を博はくすることになるのです。

### ロールス・ロイスの職人技

ロールス・ロイス社の職人たちのプライドには、並々ならぬものがあるようです。因みに、職人たちの多くが自社のことをロールス・ロイス社と言わずに「ロイス社」と呼ぶのは、商才を発揮したロールス氏よりも、技術屋かたぎだったロイス氏を尊重した、職人氣質の表れだといわれます。

「ロールス・ロイス」の静かなエンジン音は「イギリスのコインをエンジンの上にもせても立つ」という伝説を生んだほどです。このエンジンを調整するのには職人が使う道具はというと、本物の「聴診器」だそうで、さながら人間の心音しんおんを聴くが如くです。

また「ロールス・ロイス」独特のラジエーターは、ギリシャ神殿のエンタシス(円柱につけられた微妙なふくらみ)を採り入れたもので、そこには製作した職人のサインが刻まれています。理由は、事故に遭った際などに、同じ職人が修理にあたるためだそうです。

#### ★ ご存じですか? ★

##### 最上質の牛革が!?

「ロールス・ロイス」のシートと内装には最上質の牛革が使われています。車一台に必要な皮は、厳選された牛18頭分だといわれます。

# 「フジ」

春咲きの蔓性花木の代表「フジ」は、古来、長寿で繁殖力の強いめでたい植物とみなされ、家紋としても「キク」「キリ」「タケ・ササ」に次いで多



く用いられているそうです。奈良時代に栄華をきわめた藤原氏も（一門すべてではないにしろ）フジを家紋とし、衣服の紋様にフジの花を配していました。

『古事記』にも、麗しい女神を射止めようとした兄弟神の物語「藤の花衣の伝説」が記され、その内容から、当時すでに最も美しいものとしてフジの花が崇められ、丈夫な蔓の繊維を利用して衣服や沓などが作られていたこともうかがえるといえます。また、『枕草子』でもフジの花が称えられ、藤壺と呼ばれる女性も登場する『源氏物語』では、女性をフジになぞらえた表現も多数見られます。

因みに、古い書物には、フジは酒を好むので、根元に酒の糟を用いればよいと記され、1709年（宝永6年）に刊行された『大和本草（やまとほんぞう）』（貝原益軒編纂）にも、花瓶にフジを活けるときに酒を加えると「久しく萎れず」と書かれているそうです。

\*花言葉……「歓迎」「思い」など。

# 大衆

「大衆」といえば、「大衆食堂や大衆酒場といった看板をよく見かけたなあ」と、昭和の時代を懐かしむ方もおられるかもしれませんが。このように使われる「大衆」は、多数の人びとや一般庶民を指し、「大衆食堂」や「大衆酒場」は、値段が手ごろで庶民的な料理やアルコールを提供する店をいいます。

仏教では「大衆」は（だいしゆ）と読み、多数派という意味を持つサンスクリット語「マハーサンギカ」の訳語です。

お釈迦さまが入滅されて後、インド仏教ではその教義の解釈をめぐる分裂が始まり、伝統主義的な長老のグループ「上座部」と、革新的な修行僧のグループ「大衆部」に分かれます。この「大衆」がやがて、多数の民衆を意味する言葉として一般に使われるようになったのです。

また、あるものごと

が一般民衆の間に広まることを「大衆化」といいますが、現在のような情報化社会では、どんなこともあつという間に大衆化してしまう傾向があるようです。



# 葬儀後のマナー

まず葬儀にお参りした側のマナーとしては、帰宅して後、玄関前で、お清めの塩を使います。しかし、宗派や個人によって死に対する考え方が異なる場合もあり、このお清



めは必ず行うべきというわけではありません。忌明けに合わせて喪主から「香典返し」として品物が届いた場合には（そのような不幸は二度とあってはならないという意味から）お礼状は出さないのが一般的なきたりです。もし親しい間柄で、届いた旨を伝える場合にも「けっこうなもの頂戴して」とか「ありがとうございました」といった表現は控えるようにしましょう。また、形見分けの申し出があった場合は、遠慮せずにいただくのが礼儀です。

葬儀を執り行った側のマナーとしては、忌明けに手配をする香典返しは、祝いごとのお返しの商品とは異なり、あとに残らない消耗品を選ぶようにします。また、故人の愛用品などをとくに親しかった方に形見分けとして贈る場合は、相手の負担になるような高価なものなどは避け、もらっていた品は包装せずに、そのまま差し出すのがマナーです。